

にのみや気候市民会議（第２回）実施結果

日 時：令和６年７月６日（土） 午後１時３０分から午後４時３０分

場 所：生涯学習センターラディアン ミーティングルーム２

参加者：２７名

・町 民 １８名

・事業者 ３名（合同会社グリーンエネルギー湘南、
株式会社ユニバーサル農場、柳川乳業株式会社）

・町職員 ６名

講 師：井上岳一氏（株式会社日本総合研究所 創発戦略センター
チーフスペシャリスト）

傍聴者：１７名

I. 概要

第２回にのみや気候市民会議は、株式会社日本総合研究所 創発戦略センターのチーフスペシャリストであり、二宮町に在住の井上岳一氏を講師にお迎えし、「CO₂の吸収源について」をテーマに講義を行ったほか、町内で再生可能エネルギー事業や農業を営む事業者におブザーバーとして参加いただき、各業界での地球温暖化防止対策の課題等について情報提供を行いました。

「議論（話し合い）」では、「二宮町に増えてほしいこと・減ってほしいこと」や「どうやったら実現できる？」について、話し合いを行いました。

II. 当日の流れ

１. ファシリテーターの紹介

町とともに気候非常事態宣言に基づく取り組みを推進している「環境づくりフォーラム（地球会議チーム）」より、今後のにのみや気候市民会議の司会進行やテーブルファシリテーターを行うにあたっての挨拶やこれまでの経緯について、紹介を行いました。

※詳細は「ファシリテーター紹介スライド」を参照

２. 事務局説明

事務局より、第２回にのみや気候市民会議の流れについて説明を行いました。

※詳細は「事務局スライド（P２～P１３）」を参照

３. 講義

井上岳一氏より、「CO₂の吸収源について」をテーマとした講義を行いました。

※詳細は「講師スライド」を参照

4. 情報提供

情報提供①

事務局より、再生可能エネルギーに係る事業者（株式会社ユニバーサル農場）から予めヒアリングしておいた回答をもとに「Q.太陽光パネルが普及しないのはなぜ?」、「Q.始めたきっかけは?」、「Q.大変だったことや苦労していることは?」等について情報提供を行いました。

※詳細は「事務局スライド（P17～P19）」を参照

情報提供②

事務局より、農業に係る事業者（合同会社グリーンエネルギー湘南）から予めヒアリングしておいた回答をもとに「Q.有機農業が普及しないのはなぜ?」、「Q.ソーラーシェアリングが普及しないのはなぜ?」、「Q.これからしようとしていることは?」等について情報提供を行いました。

※詳細は「事務局スライド（P20～P22）」を参照

5. 議論（話し合い）

議論（話し合い）①

A～Eの5グループに分かれて「二宮町に、増えてほしいこと／減ってほしいこと」に関して話し合いを行いました。

議論（話し合い）①

～ 二宮町に、増えてほしいこと / 減ってほしいこと ～



※「話し合いのルール」は第1回の意見交換会と同様

議論（話し合い）①に関する発表

各グループの発表者より、グループ内で話し合った内容について、発表を行い、全体で共有しました。

【A グループ】

〈増やしたいこと〉

- ・木を使ったもの
- ・地産地消のものやそれを買える店
- ・電動四輪自転車
- ・偉人

〈減らしたいこと〉

- ・ごみ
- ・コンクリート
- ・輸入に頼った製品

【B グループ】

〈増やしたいこと〉

- ・町ぐるみの環境教育
- ・街路樹
- ・清流
- ・二宮産の洋服店
- ・第一次産業

〈減らしたいこと〉

- ・排気ガス
- ・環境に悪い洗剤
- ・コンクリート
- ・プラスチック

【C グループ】

〈増やしたいこと〉

- ・広場などの子どもが自然の中で遊べる場所
- ・有機農場
- ・地産地消
- ・電動四輪自転車
- ・公共交通機関

〈減らしたいこと〉

- ・プラスチック
- ・プラスチックごみ

【D グループ】

〈増やしたいこと〉

- ・ 自然
- ・ 砂浜
- ・ 果樹園
- ・ 水遊びができる公園
- ・ 避難所
- ・ 地産地消

〈維持したいこと〉

- ・ 地域振興券

〈減らしたいこと〉

- ・ 交通量
- ・ 日影がない公園
- ・ コンクリート

【E グループ】

〈増やしたいこと〉

- ・ 自転車専用道路
- ・ バス
- ・ 人口
- ・ 地産地消ができる店
- ・ 緑
- ・ 子どもたちが大人になって結婚してもずっと住み続けてほしい
- ・ リサイクル
- ・ ごみの有効活用

〈減らしたいこと〉

- ・ 宅地開発
- ・ 駅周辺の居酒屋が多すぎる
- ・ ごみ

議論（話し合い）②

A～E の5グループに分かれて議論（話し合い）①での議論の内容を「どうやったら実現できる？」について話し合いを行いました。

議論（話し合い）②

～ どうやったら実現できる？ ～



※「話し合いのルール」は第1回の意見交換会と同様

議論（話し合い）②に関する発表

各グループの発表者より、グループ内で話し合った内容について、発表を行い、全体で共有しました。

【A グループ】

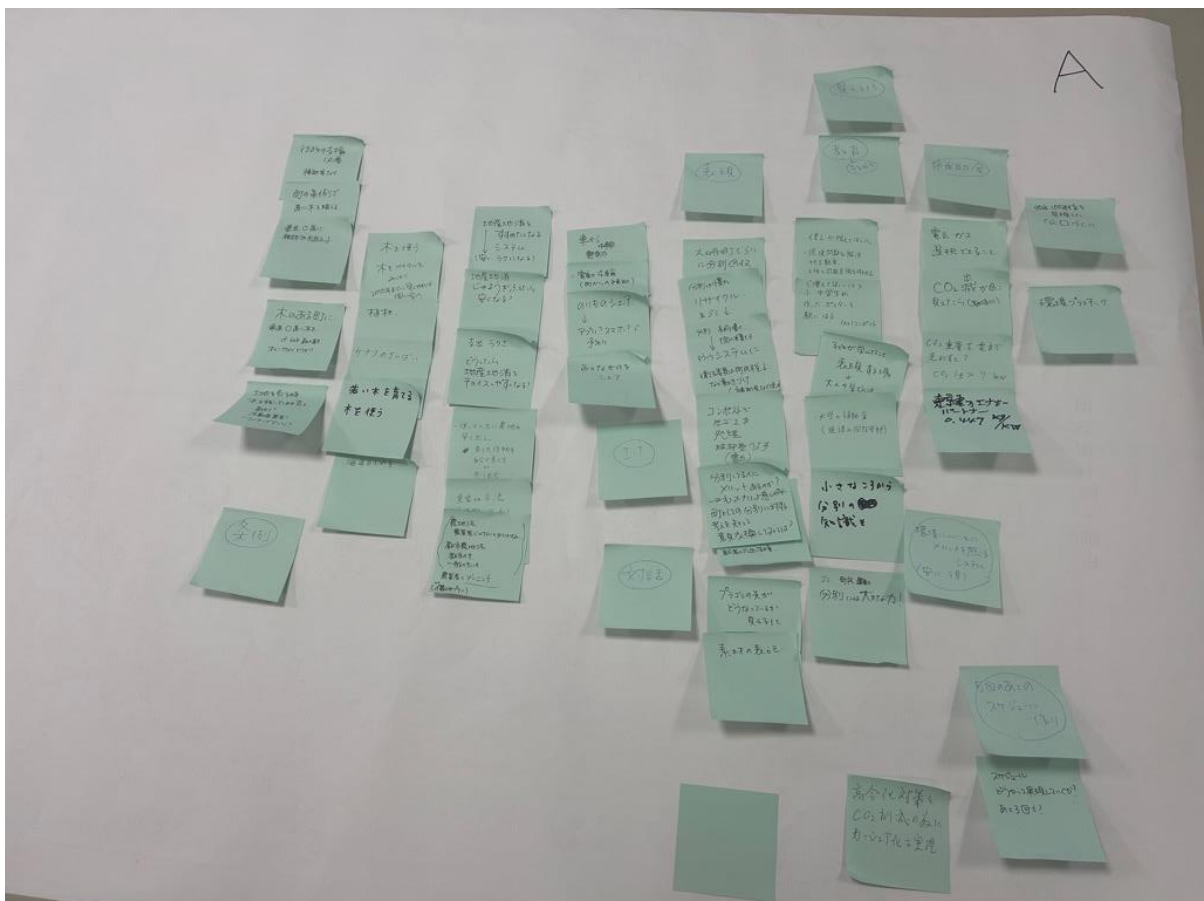
〈発表内容〉

土地を売る際に木を残したままにするなどの条例を制定することや IT を活かすこと、環境教育を強め、子どもがその教育を体現していく事が求められると思う。

また、全 5 回の気候市民会議を終えた後にどのように進んでいくかも大切。

分別を行うなどの環境行動をすることへのメリットを与えることも重要であり、どのようなメリットにするのか意見交換会などの対話を通じたものの中で決めていくとよいと思う。

〈グループ内での議論の内容〉



【B グループ】

〈発表内容〉

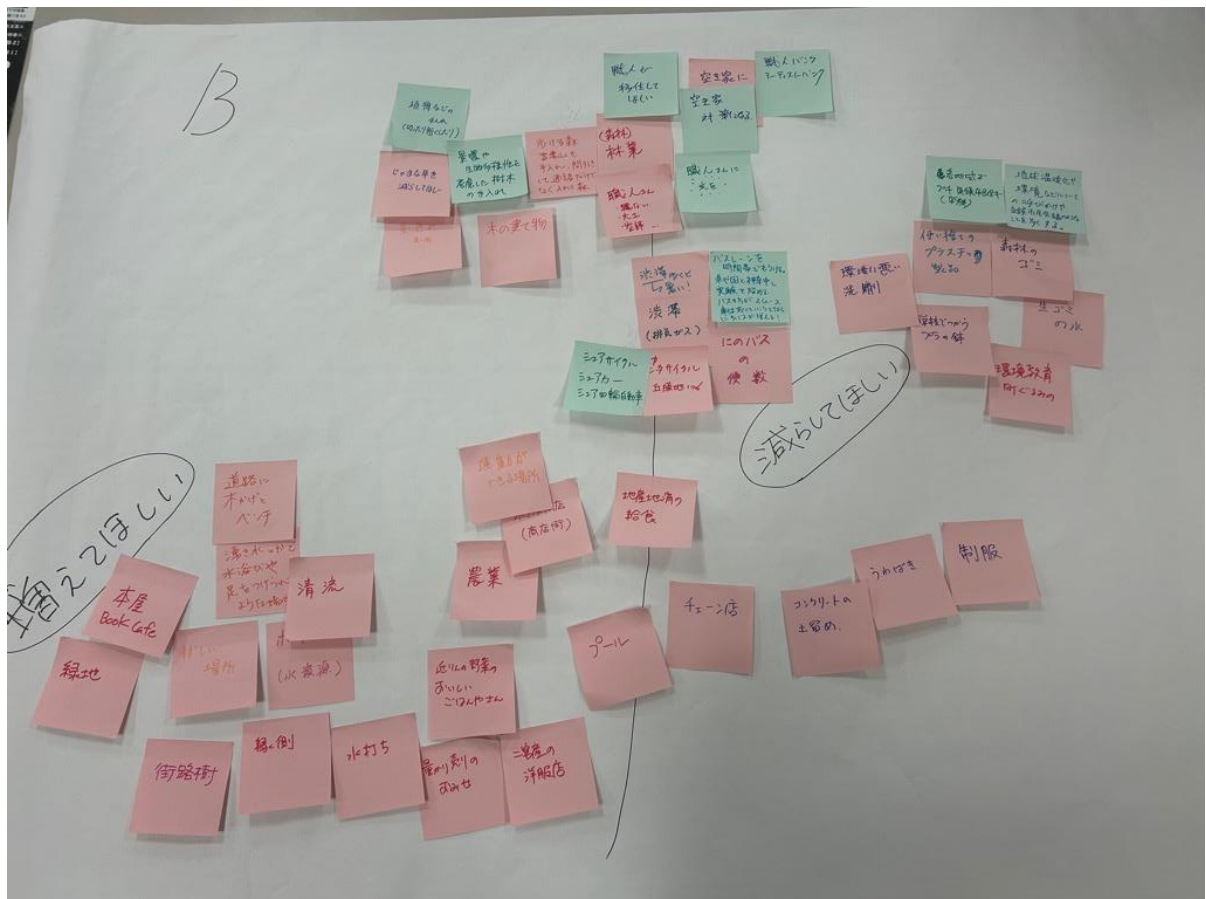
使い捨てプラスチックの利用が減らないのは、そもそも知らないことが理由だと思う。広報紙などでの周知を強めるとよいと思う。

また、各地区や地域ごとに気候市民会議のようなものを開催することで、それぞれの特性に合ったアイデアが出るのではないかな。

バスを乗る習慣や乗る方が得だと思ってもらえるような取り組みをしていく事が必要だと思う。

地産地消や木材の有効活用のために、人材教育をすることや職人やアーティストに移住してきてもらうことが重要だと思う。例えば、職人やアーティストはきれいな場所へのこだわりは少なく、自由に使える場所を探していると考えられることから、空き家を活用するのがよいのではないかなと思う。

〈グループ内での議論の内容〉



【C グループ】

〈発表内容〉

何か物に置き換えて議論をする方が話し合いやすいと考えたことから、新庁舎の建設をテーマとした。

新庁舎は、再生可能エネルギーの利用が大事となり、役場内にパネルを展示するなどをし、役場を環境教育の場とするのがよいと思う。

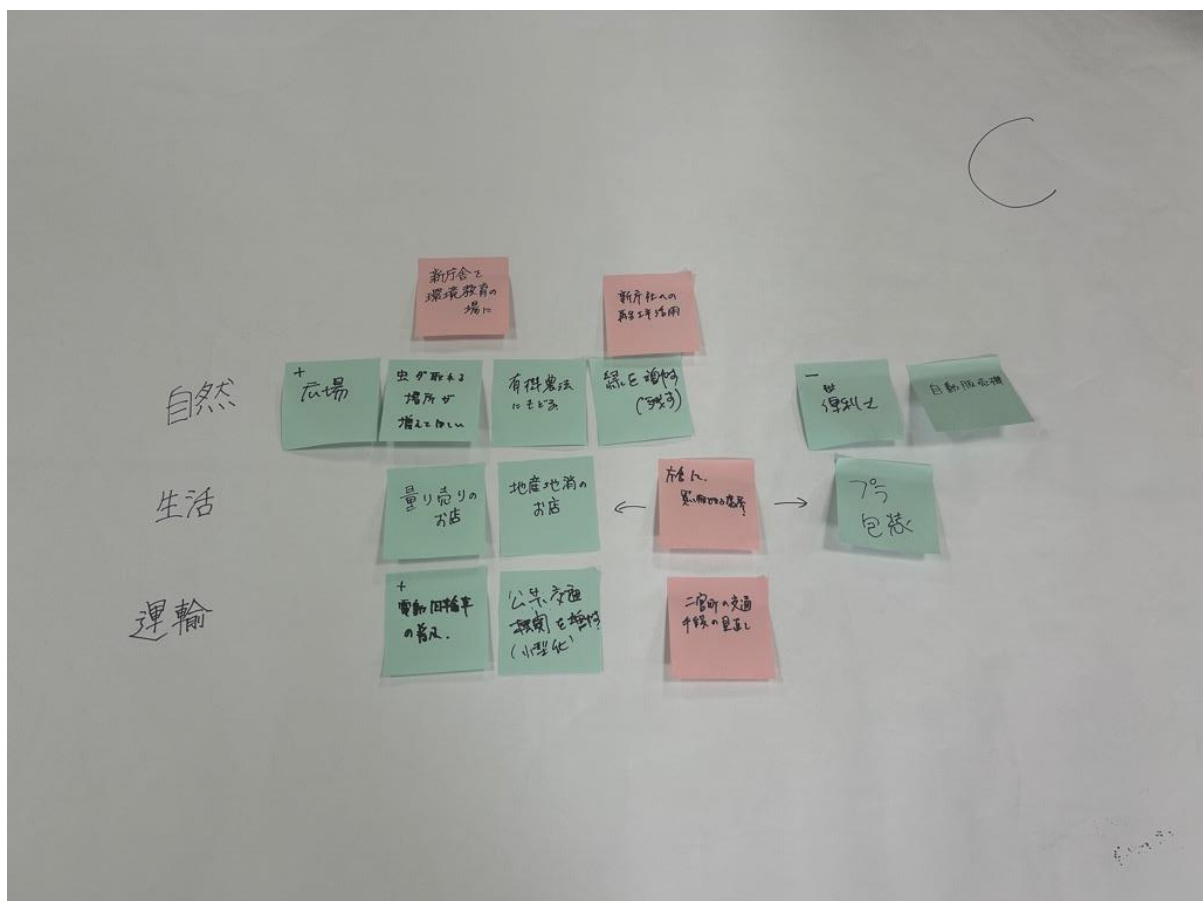
車で役場に行くのではなく町内のどこからでも役場へ公共交通を利用して行けるように整備することで、CO2 の削減が図れると思う。

生ごみを減らす策として、堆肥化するという意見があったので、庁舎の横に畑を作り、畑をボランティアの方々に運営し、堆肥を持ってきてくれた方にその畑でできた野菜を渡すというのがよいと思う。

役場内に地産地消の店や量り売りの店を入れることも意見が出ていた。

また、新庁舎が葛川に近いことから、葛川に親水公園を作るとよいと思う。

〈グループ内での議論の内容〉



〈発表内容〉

また、1つの部屋に集まることが冷房や照明などの節約になることから、コミュニティ形成に力を入れるとよいと思う。そのためには、コミュニティを支える人材の育成が大切となる。まずは、行動を起こし成功体験をすることが大切だと思う。

[illegible]

〈発表内容〉

ごみを置いている所にコンポストを設置し、生ごみはそこに入れるとよいと
いう。

また、分別の徹底をしてもらうために、強制的にやらせるということではなく、しっかりと説明を町民に行い、理解してもらうことが大切だと思う。

[illegible]

6. 講評

井上岳一氏より、「議論（話し合い）①」、「議論（話し合い）②」で話し合われた内容等について、講評をいただいた。

話し合いの中で、なぜ家庭部門からの CO2 排出割合が多いのかという意見があったので、簡単に説明すると、事業者が少ないこともそうだが、自家用車からの排出も運輸部門ではなく、家庭部門に含まれていることが 1 つの理由と言える。家庭部門からの排出を減らすには、暮らし方を変える必要があるので、いつまでも消費する側でいるのではなく、再生可能エネルギーを作る側になることや、何を自分で生み出せるのかを考えることが大切である。

「新庁舎」の建設についても話題に上がっていたが、二宮町は新庁舎を建てるのがどのような利益（効果）をもたらすのかについて、しっかりと町民に伝えていくことが重要である。

また、「ごみ」についても、焼却の実態や分別を行っている理由などについて細かく知らない人が多くいることから、何事についても細かな情報を伝えていくことが大切と考える。